

《はじめに》

水稲の安定生産に向けては、その年の気象条件に合わせた栽培管理(基本技術の励行)が重要です。

ただ近年、水稲の出穂期後の高温により、白未熟粒などの高温登熟障害が発生しています。

白未熟粒は発生要因ごとに対策が異なるため、お手元に昨年産の米が残っていたら、白濁部位を確認し、発生要因に応じた高温対策に取り組みましょう。

また、県内全域で問題となっているイネカメムシ被害の対策も行い、収量・品質向上に取り組みましょう。

《白未熟粒の種類による発生要因と対策》

	基白粒	背白粒	乳白粒																				
白色不透明部の位置 (写真の上段は外観、下段は断面の様子)																							
主な発生要因	<ul style="list-style-type: none"> 出穂期後20日間の高温(日平均気温が26℃以上) 出穂期の葉色の低下 		<ul style="list-style-type: none"> 日照不足、出穂期後の高温やフェーン現象等の乾燥風による稲体水分の低下 籾数過剰や倒伏 (籾数当たりのデンプンの転流・蓄積不足) 																				
対策	<p>○出穂期前7~5日(穂ばらみ期)に、葉色が目標値に達していない場合は、速効性肥料で追肥を施用(窒素量で1kg/10aを上限)しましょう。</p> <p>出穂期の葉色目標値と、軽減対策の時期及び窒素成分量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>葉色値(SPAD値)</th> <th>施用時期</th> <th>窒素成分量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ふさこがね</td> <td>36.5</td> <td rowspan="3">出穂期前7~5日前</td> <td rowspan="3">1kg/10a以内</td> </tr> <tr> <td>コシヒカリ</td> <td>34.4</td> </tr> <tr> <td>粒すけ</td> <td>34.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注)「コシヒカリ」のSPAD値34.4は、カラースケールによる群落葉色値で概ね4.0に相当します。</p> <p>○ドローンで追肥する場合は、ドローン専用肥料をお使い下さい。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>例 空散追肥306</td> <td>3.3 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>Jコート Quick</td> <td>2.5 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>セントラル尿素 44.5</td> <td>2.5 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>CORON(液肥)</td> <td>希釈倍率 2-5 倍</td> </tr> </tbody> </table>		品種	葉色値(SPAD値)	施用時期	窒素成分量	ふさこがね	36.5	出穂期前7~5日前	1kg/10a以内	コシヒカリ	34.4	粒すけ	34.0	例 空散追肥306	3.3 kg/10a	Jコート Quick	2.5 kg/10a	セントラル尿素 44.5	2.5 kg/10a	CORON(液肥)	希釈倍率 2-5 倍	<p>○幼穂形成期の目標茎数の8割(「コシヒカリ」は目標穂数の8割)に達したら、速やかに中干しを行い、過繁茂防止と根張の促進を行いましょう。</p>  <p>中干しによる「コシヒカリ」倒伏軽減の効果(写真左:中干し無し、右:中干し実施のほ場)</p>
品種	葉色値(SPAD値)	施用時期	窒素成分量																				
ふさこがね	36.5	出穂期前7~5日前	1kg/10a以内																				
コシヒカリ	34.4																						
粒すけ	34.0																						
例 空散追肥306	3.3 kg/10a																						
Jコート Quick	2.5 kg/10a																						
セントラル尿素 44.5	2.5 kg/10a																						
CORON(液肥)	希釈倍率 2-5 倍																						

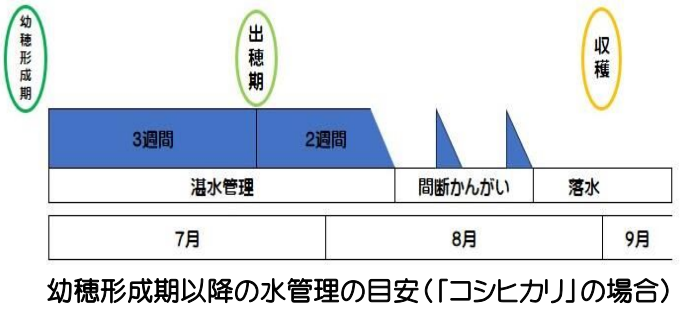
共通の対策

《対策1》根の活力を維持する水管理

出穂期の3週間前から2週間後までの期間は、湛水状態を保ち、その後は、登熟期間後半の根の活力を維持するため、間断かんがいとします。

収穫前の落水時期が早いと、白未熟粒が増加しますので、落水は出穂期後25日以降とします。

田面に大きな亀裂が入ると根が断絶され、登熟に必要な水分が不足しますので注意しましょう。



《対策2》イネカメムシによる不稔、斑点米対策

近年、イネカメムシが多発生し、出穂時に加害されると不稔粒による減収や、乳熟期に加害されると斑点米(基部斑点米)による品質低下が発生するなどの問題が発生しています。

イネカメムシは、出穂直後の稲に成虫が飛来し、加害・産卵し、ふ化した幼虫も加害します。

イネカメムシ対策には、早めの防除が必要で、出穂期前の粒剤散布又は出穂期のフロアブル剤散布が効果的です。さらに、他の斑点米カメムシ対策としては穂揃期から乳熟期の追加防除も必要です。



拡大写真

出穂直後に加害
(稲穂に止まる成虫)



イネカメムシの吸汁
による不稔(立ち穂)

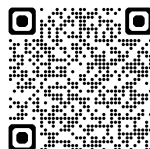


乳熟期に加害されると基部(胚芽とその周辺)斑点米になる

《お役立ち情報》



出穂期は、水稻生育予測システム「でるた」で予測結果を参考に、ほ場での生育状況も確認しましょう。



水稻の高温対策に関する研究成果は、第63回試験研究成果発表会_作物(水稻・高温対策)のYouTube動画をご覧下さい。



イネカメムシと、その他の斑点米カメムシの生態の違いは、こちらのYouTube動画を参考にしてください。